

# 令和2年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立医王特別支援学校小松みどり分校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計	分析（結果と課題、改善点等）
1 児童生徒の自立 (1) ライフスキルを高めるとともに社会性を養う。  (2) 各教科の基礎基本事項の習得と、主体的に学習に取り組む力をつける。  (3) 家庭との連絡を密にし、児童生徒の登校意欲が高まるように努める。	① 日常生活で生じる様々な問題に対して、建設的かつ効果的に対処する力を育てる。	指導課	自己表現する力が、 A：高まった B：少し高まった C：あまり高まらなかった D：高まらなかった	児童生徒 保護者 教員 計 A： 20 20.0 42.9 29.4 B： 60.0 80.0 57.1 64.7 C： 20.0 0 0 5.9 D： 0 0 0 0	A+Bが94.1%で、最終評価は達成。 中間評価時より、それぞれの評価者グループにおいて、評価が上がっている。今後も、児童生徒が自分の表現力が高まったことを実感できるような指導の工夫を行っていきたい。
	② 学習の遅れを補うため、主体的に学習に取り組むための工夫をする。	教務課	学校・家庭において進んで学習を、 A：毎日行った B：ほとんど毎日行った C：あまり行わなかった D：行わなかった	児童生徒 保護者 教員 計 A： 0 20.0 14.3 11.8 B： 60.0 40.0 85.7 64.7 C： 40.0 40.0 0 23.5 D： 0 0 0 0	A+Bが76.5%で、最終評価は達成。 中間評価時に比べ、児童生徒の自己評価が下がっており、登校学習との関連が伺える。引き続き、登校支援とともに家庭で主体的に学習に取り組むための工夫を行ってきたい。
	③ 保護者と児童生徒の病状や生活について十分話し合い、登校につなげる。	指導課	前年度より出席日数の割合が増えた児童生徒が、 A：60%以上 B：40%以上 C：20%以上 D：20%未満	前年度より出席日数の割合が増えた児童生徒 4人 80%	最終評価時（1/18）において、児童生徒4名の出席日数の割合が前年度の出席日数の割合より増えている。保護者と十分な話し合いを行い、児童生徒の登校・学習意欲に応える支援を行うことができた結果と考える。
学校関係者評価委員会の評価			・肯定的な評価をしている児童生徒が多く、児童生徒の自立という目標は達成できているのではないかと。一方で、肯定的な評価を行えなかった児童生徒も複数おり、その児童生徒の卒業後の自立に向けて、考えていく必要がある。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			・自己評価の低い児童生徒のキャリアを見つめ、卒業後の自立に向けたイメージを児童生徒と話し合い、卒業後に関わる関係機関と、在学中から連携していく。		
2 教職員の資質の向上 (1) 教科の専門性を高め、指導力・授業力の向上に努める。	④ 児童生徒がわかりやすい授業を行うために、指導法の改善や教材研究に努める。	教務課	分かりやすい授業を行うことが、 A：十分できた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった	教員 A： 14.3 (1) B： 85.7 (6) C： 0 (0) D： 0 (0)	A+Bが100%で、最終評価は達成。 それぞれの教員が、ICT機器等を活用し、児童生徒の理解を図るための工夫を行うことができた。これからも、児童生徒が分かりやすい授業づくりに取り組んでいきたい。
			教材の工夫や授業の分かりやすさに、 A：十分満足できる B：満足できる C：あまり満足できない D：満足できない	児童生徒 A： 40.0 (2) B： 60.0 (3) C： 0 (0) D： 0 (0)	A+Bが100%で、最終評価は達成。 どの教科もICT機器等の利用や教材の工夫を図ったことが、児童生徒の理解につながったと考えられる。今後も、児童生徒が分かりやすい授業づくりに取り組んでいきたい。

	(2) 児童生徒の理解と適切な働きかけの基盤となるカウンセリングマインドを身につける。 (3) 児童生徒一人一人の病状等に応じた登校支援に努める。	⑤ 積極的に外部の研修会等に参加し、内容を校内で周知する。	教務課	外部の研修会等に、 A：年に3回以上参加し周知を行った B：年に2回参加し周知を行った C：年に1回参加し周知を行った D：参加しなかった	教員 A： 28.6 (2) B： 28.6 (2) C： 28.6 (2) D： 14.3 (1)	A+Bが57.1%で、最終評価は未達成。 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、集合スタイルの研修会への参加が難しかった。オンラインや書籍・インターネットで情報収集する等の方法で研修をすすめた。
		⑥ 登校が難しい児童生徒への病状等に応じた登校支援を行う。	指導課	登校が難しい児童生徒への登校支援が、 A：十分行えた B：行えた C：あまり行えなかった D：行えなかった	教員 A： 0 (0) B： 100 (7) C： 0 (0) D： 0 (0)	A+Bが100%で、最終評価は達成。 児童生徒の登校について、保護者と連絡を取り合ったり、登校時の児童生徒への学習支援を適切に行ったりすることができた。保護者との協力体制を更に強くし、児童生徒の登校意欲が高まるように取り組みを進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価			・個別に柔軟な対応がなされている。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			・引き続き、個に応じた、柔軟な対応・支援が行えるように取り組んでいく。			
3	センター的機能 (1) 医療機関及び関連機関との連携に努める。  (2) 前籍校・小中学校との連携に努める。	⑦ 医療機関や関係機関と児童生徒の病状等について情報交換を行う。	指導課	医療機関等と連携して指導が、 A：十分行えた B：行えた C：あまり行えなかった D：行えなかった	教員 A： 0 (0) B： 100 (7) C： 0 (0) D： 0 (0)	A+Bが100%で、最終評価は達成。 今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、医療や関係機関等との情報交換の場を設けることが難しく、紙面や電話での情報交換となった。やり取りを繰り返すことで、連携した指導を行うことができた。
		⑧ 前籍校と、児童生徒の前籍校への復帰について情報交換を行う。	総務課	前籍校との情報交換が A：十分行えた B：行えた C：あまり行えなかった D：行えなかった	教員 A： 0 (0) B： 28.6 (2) C： 57.1 (4) D： 14.3 (1)	A+Bが28.6%で、最終評価は未達成。 今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、学校公開ができず、また、在籍児童生徒が皆卒業学年ということで、前籍校への復帰ではなく上級学校への進学のため、情報交換の必要性が少なかったからと考えられる。
学校関係者評価委員会の評価			・センター的な役割として、前籍校との連携だけでなく、卒業後の連携も見据え、相談窓口などを確保しておく必要がある。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			・児童生徒の「今」と「これから」につながる指導・支援システムを検討していく。			

<p>4 教職員の効率的・効果的な時間管理の推進 (1)業務終了時刻を意識して、教材研究や授業準備、校務分掌等の業務の遂行に努める。</p>	<p>⑨ 時間外勤務の縮減に向けて、各種会議や校務分掌等の業務の見直しを行う。</p>	<p>総務課</p>	<p>業務終了時刻を意識して校務を行うことが、 A：十分できた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった</p>	<p>教員 A： 28.6 (2) B： 71.4 (5) C： 0 (0) D： 0 (0)</p>	<p>A+Bが100%で、最終評価は達成。 教員は、勤務時間内で業務を終えられるように取り組むことができた。また、一人に業務が偏ることなく、業務を平準化した中で、効率的に業務を行うことができた。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>			<p>・職員全員で、協力して、業務の遂行・児童生徒の指導にあたってほしい。</p>		
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>			<p>・引き続き、全職員での協力体制を堅持し、業務の遂行・指導生徒の指導にあたっていく。</p>		